

『2023 年度東北学院大学外部評価報告書』を受けて

東北学院大学は、教育・研究水準の向上及び組織の活性化等に資する提言を学外の第三者から得るために、2010 年度から外部評価を実施してきました。2023 年度は第 5 期外部評価期間（2022～2024 年度）の 2 年目となります。第 5 期の外部評価委員会は「教学マネジメント体制の個別具体的な運用状況」を評価対象としており、2023 年度外部評価においては、近年の大学教育における内部質保証の重点課題である「学修成果の検証及び可視化」、「e ポートフォリオの活用」及びそれらに基づく「学修支援・研究指導に関する取組」を具体的なテーマとしています。始めに書面調査を行った後で、学修成果検証への学生参画の観点から、特に今年度は学生インタビュー調査が行われました。

「学修成果の検証及び可視化」については、多面的な展開が評価されました。全学レベルでは、授業改善のためのアンケートや学生調査、アセスメント・テストの実施、教学に関する懇話会や学生協議会の開催による学生の意見聴取等を通じて学生の状況・課題を把握している点です。部局レベルでは、成績評価基準を明確に定め、学位授与の方針（DP）を総合的・客観的に評価して達成状況を把握する取組が評価されました。ただし、課題も指摘されており、アンケート回答率の低さやアンケート結果への対応、アセスメント・プランの実質化、学修成果達成の評価指標の明示及び GPA の重視・積極的活用などが改善点として挙げられています。

「e ポートフォリオの活用」については、2023 年度から導入した e ポートフォリオシステム「TG-folio」を一部の学生が学びや成長の気づきや振り返りに活用していることが確認されていますが、退学のおそれがある学生の事前抽出への活用、入力義務化及び広報強化など、さらなる展開の強化が求められています。TG-folio の本格的な活用・定着は今後の課題です。

「学修支援・研究指導に関する取組」については、グループ主任制度やラーニングコモンズ「アカデミックサポートデスク」の設置など、多様な学修支援の取組が評価されています。しかし、学修支援システムの十全な機能化に向けて、学生のラーニングコモンズの認知・活用向上、ラーニングコモンズとグループ主任の連携強化や教職員の研修などがさらに必要であると指摘されています。大学院生への支援も充実させるなど、学生のニーズに応えるとともに学生の理解を得る工夫が求められています。

外部評価委員会の皆様からは、特に「学修成果の検証及び可視化」及び「e ポートフォリオの活用」に関する外部の教育機関・民間企業等の視点からのご質問や指摘、並びに内部質保証実質化のため取り組みへの期待を含んだご意見を頂戴することができました。本報告書の作成にあたり、外部評価委員会の皆様には多大なるご尽力をいただきましたことに、あらためて厚く御礼申し上げます。このたび提出された『2023 年度東北学院大学外部評価報告書』は、大学ホームページ等を通じて広く学内外に公表し、いただいた評価及び意見は本学の教育研究活動の改善のために有効活用させていただきます。

2024 年 4 月

学長 大西 晴樹
副学長（点検・評価担当） 中沢 正利